

田舎暮らしのみちしるべ

E-mail chiiki@city.iwakuni.lg.jp

第13回 IJU（移住）応援団交流会 in 錦

【第13回 IJU 応援団交流会を開催しました】

平成26年6月25日（水）錦ふるさとセンターにて、IJU（移住）応援団 NPO 法人ほっとにしき主催により開催されました。今回は錦町自治会組織の代表として自治会連合会会長、副会長に出席をお願いいたしました。また、前回に引き続き、やましろ商工会、今回初めて岩国西商工会からも参加をいただきました。山口県からは岩国農林事務所より参加、各総合支所、出張所関係者、また、前日から職場体験研修を市民協働推進課で行っている、岩国西中学校2年生の秋山さん、山崎さんの2名も参加してもらいました。

はじめに参加者全員の近況を含め、手短かに自己紹介していただきました。地域によっては、この数年で若い移住者が増えてきた地域、若者たちで自分で食べるものを作りたい希望への支援・指導活動、休校中の小学校の管理・活用から活動を発展させた地域、地域のイベントが成長し、外部からの来訪者を鉄道、ホテル、宿泊施設と共同して展開している地域などの紹介がありました。また、今回参加いただきました錦町連合自治会会長さん、副会長さんには IJU(移住)応援団の地域の活性化の事例や注意すべき点などを、今回の意見交換会を通じて知っていただき、今後の錦町地域活動の推進の一機能として参考にしていただきました。商工会からは活動内容及び先進市町視察の報告をされました。

ほっとにしきは平成18年の岩国市の合併を機に発足。現在錦町地区には IJU（移住）応援団が4箇所登録されていますが錦町全域に会員を持っています。先進的に各種活動に取り組んできましたが、現在、かなりの活動を整理し今後の対応策を検討している状況であるとの報告がなされました。

意見交換会では次の世代の担い手である若者の中山間地域への移住促進を行うための対応策や課題が率直に



議論されました。若者を受け入れる気持ちと意見交換ができる日常の場、仕事、家、育児の支援体制など、受け入れに対する準備事項や生計を立てて行ける方法をどうするか。田舎暮らしは意外にのんびりできないし、それなりのお金もかかる。移住希望者にはその点を十分説明し、理解してもらう必要がある。空気、水、新鮮な野菜、自然に興味のある人は、田舎暮らしを楽しめる。空き家は街中の借家・売り家とは違い、どこか修繕する必要があることを十分説明し、理解してもらうことが必要。改修して楽しむ気持ちと資金も必要です。特別参加の中学生は、前日の演習問題「自分たちのまちが元気になるためにはどうしたらよいか」を発表してもらいました。10項目の対応策のうち、自分たちが出来る順として、挨拶、地域との交流、ボランティア、地域の伝統の継承などを挙げ、さらに、お年寄り、観光、路上の整備、エネルギー、特産品の開発などは当面は大人に託されたようです。地域の若者としてしっかりと考える力を持っていると感じられました。その他、今回、今までの交流会で議論・検討し中山間地域の活性化のための移住促進に効果があると思われる空き家改修助成制度の説明も行いました。

岩国の初夏を楽しむイベントのご案内

- 地底王国美川ムーバレー（夏は涼しい地底探検）
- 寂地峡キャンプ場（錦町 多くの滝とキャンプ場）
- 清流の郷（錦町と温泉と愛犬と泊まれるログハウスも有）
- 雙津峡温泉錦パレス（錦町宇佐川のほとり）
- 錦川での鮎釣り（入漁料が必要です）
- 錦帯橋付近の錦川での鵜飼い船
- 潮風公園みなとオアシスゆう（同園にミクロ生物館）
- 温水プール
- グリーンオアシス（玖珂総合運動公園隣）
- 弥栄湖のキャンプ場（美和町）
- 山口県由宇青少年自然の家（瀬戸内海の眺望良 銭壺山頂）
- 周東森林体験交流施設丸太村（パストラルホール隣）

岩国市の島 柱島群島の紹介

岩国港（新港）より毎日3便土日は4便、約1時間の所要時間です。

現在、柱島漁協主催で4つの遊漁釣り体験コースを開催しています。

1. 雑漁遊漁船 10月まで開催、定員5名
2. 鯛網遊漁船 9月まで開催、定員6名
3. 建網遊漁船 9月まで開催、定員4名
4. 地引網 9月まで開催、定員約30名

現地旅館 5軒あり

問合せ先：柱島漁業協同組合

電話 0827-48-2002

移住者紹介

弘兼 信哉、千代夫妻

岩国市錦町府谷（IJU（移住）応援団、府谷グリーン山里会がある地域です）に昨年Uターンされました。奥様は広島市のご出身で、Uターンについても特に反対はなかったとのことでした。現在は、信哉さんのお母様も含め3人暮らし。帰郷後、親から引き継いだ山里会に参加され、春のシバさくらまつり、初夏のほたるまつりの準備にも参加されたりしながら、これまでに約30種類の野菜を近所の人に聞いたり、インターネットで調べたりして、楽しく挑戦されたようです。田舎暮らしは、忙しいとのことですが、当時は、面白さが先行し、秋になり腰が重くなったとか。四季に合わせて、自分の体調も注意しながら取り組むことの大切さを感じられたそうです。Uターンする前はお菓子メーカーで西日本全域の営業を担当してこられ、いわゆる転勤族で忙しい日々を送られていたようです。営業時代のお客様へのプレゼンテーションの経験を、今では、故郷の地域の紹介にと立ち上げた「府谷山里会ホームページ」で活かせました。是非皆様も一度ご覧ください。

<http://funotani.sakura.ne.jp/>



事務局から UJI ターン促進は、IJ ターン同様に地域への U ターンを促進させていく計画です。

IJU（移住）応援団、自治会その他、全ての組織、個人の皆様との協力を推進していきたいと思えます。